

ウインターカップ 2019 審判派遣報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	ウィンターカップ2019 令和元年度 第72回全国高等学校バスケットボール選手権大会						
●日程	令和元年 12月 24日 (火) ～ 令和元年 12月25日 (水)						
●会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ						
●担当試合	令和元年 12月24日 (火) 10:40 ～ 女子2回戦						
	対戦カード	桜花学園(高校総体1位)		VS		広島観音(広島)	
	クルー	R	川満氏(本部)	U1	細見	U2	佐藤氏(千葉)
	講師／主任	谷古宇氏(本部)					
	講評	・思い切りの良さが判定に出ていた点は良かった。 ・その反面、マージナルでも良いのではないかと思うケースをファウルとしていくつか取り上げていた ・桜花学園の控えメンバーに対する対応がクルーとして後手後手だった所が広島観音のベンチにフラストレーションに繋がってしまった。 ・ヘルプでコールするときは、もっと笛のタイミングを遅らせる意識を持つ。					
●自己の感想	・両チーム間にフィジカル差があり、コンタクトに対する影響(RSBQ)の見極めを難しく考えてしまった場面があり、取り上げるべきものに笛が入らなかったり、マージナルなコンタクトに対しても笛を入れてしまっていた。そういった場面でも思い込みで吹くのではなく、確認するべきだと感じた。 ・セカンダリーで吹く場合、もっと笛のタイミングを遅らせる意識を持つ必要があると感じた。						
●担当試合	令和元年 12月25日 (水) 15:40 ～ 男子2回戦						
	対戦カード	八王子学園八王子(東京)		VS		羽黒(山形)	
	クルー	R	飯尾氏(大阪)	U1	細見	U2	飯塚氏(神奈川)
	講師／主任	針生氏(東京)					
	講評	・クルーで適確に判定していたので、大きなトラブルもなく良かった。 ・点差が開き、セカンドユニットが入ってゲームがガラッと変わっても、審判が対応に遅れることなく、ゲームをコントロールしていた。 ・力があるので、あとはプライマリーの意識をもっと持つ。そうすることで、このゲームで限ったことではないが、自分のプライマリーでの吹きこぼしは無くなるし、余裕をもって判定ができるようになる。また、ダブルコールの際もテーブルレポートをどっちが行くか迷う時間もなくなる。					
●自己の感想	自分の笛が、プライマリーで吹いたのか、セカンダリーで吹いたのかを意識して鳴らす。また、セカンダリーの時は、笛を遅らせ、周りに自分はセカンダリーで吹いたことを表現したいと思った。自分のエリア、相手のエリアの割り切ることも大事で、その分自分のすべきことに集中する場面がもっとあっても良いと感じた。最後になりましたが、今回の派遣でご配慮して頂いた大阪府バスケットボール協会及び審判委員会の皆様に感謝申し上げます。						